

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択)中間評価結果

機関名	神戸大学	拠点番号	H13
申請分野	機械・土木・建築・その他工学		
拠点プログラム名称 (英訳名)	安全と共生のための都市空間デザイン戦略 (Design Strategy towards Safety and Symbiosis of Urban Space)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野:建築学〉(都市・地域計画)(都市の安全・減災)(社会・自然との共生)(計画・設計論)(都市環境)		
専攻等名	自然科学研究科(地域空間創生科学専攻(旧名称:地球環境科学専攻、システム機能科学専攻H15.10.1変更))、都市安全研究センター、文化科学研究科(社会文化専攻)		
事業推進担当者	(拠点リーダー名)	重村 力 教授	他 17名

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等:大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p>&lt;本拠点がカバーする学問分野について&gt; 21世紀の都市空間の形成は、安全と共生(環境共生・多様な主体の共存協力)という価値目標に向けて、進められるべきである。本拠点では、安全と共生に関する研究成果を個別科学の断片的知見にとどめるのではなく、都市空間のデザインに結実させる総合化の過程と、都市空間とそのシステムに具現化する過程である「都市空間のデザイン戦略」に関する学問領域を創造する。</p>
<p>&lt;本拠点の目的&gt; 神戸大学学術研究推進機構の指導の下に、自然科学研究科の改組によって設置された地域空間創生科学専攻が中心となり、都市安全研究センターを始め「都市の安全と共生」に関する研究実績のある学内組織を横断的に立ち上げるとともに、学外に2つの拠点を設置し、安全と共生を目指す都市空間のデザイン戦略に関する理論的・実践的研究の世界的拠点となり、国際競争力のある若手研究者を養成することを目的とする。</p>
<p>&lt;計画:当初目的に対する進捗状況等&gt; 国際的視野に立った減災、復興への直接的貢献と若手研究者の育成を進め、イラン・バム地震、新潟中越地震、台風23号豪雨災害など国内外の災害に対する研究調査活動を実施した。米国ワシントン大学の協力を得て、「都市空間デザインセンター(UDC)」をシアトルに設置し、国際的研究交流の活性化と若手研究者育成を進めた。震災からの復興過程にある神戸市長田区に「神戸フィールドスタジオ(KFS)」を設置し、地域主体による共生的都市空間づくりと連携した都市空間研究と若手研究者の育成を推進した。</p>
<p>&lt;本拠点の特色&gt; 震災以前からの蓄積に加え、震災を契機として世界的に検証され神戸大学が獲得してきた都市空間に対する学際的な知の集積を体系化、高度化、普遍化することを目指す点に本拠点の特色がある。フィールドを参照しつつ安全・共生に関する研究課題を都市空間のデザインに総合化し、社会学やシステム工学の協力も得て、都市の社会的システムへの具現化プロセスとして研究教育するという点にも独創性がある。</p>
<p>&lt;本拠点のCOEとしての重要性・発展性&gt; 安全で安心な都市空間の実現、自然環境と共生し多様な人間相互が共生し参画しうる都市空間の持続的な発展の研究は、わが国のみならず世界の先進諸国の都市に共通する普遍的な重要研究課題である。神戸大学の既存組織と学外拠点(UDC、KFS)が連携することにより、わが国を含む環太平洋地域における安全と共生をめざす都市空間の形成に関する研究の発展に大きく貢献できる。</p>
<p>&lt;本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果&gt; 災害で疲弊した都市の復興と再生をめざす研究の成果として、安全と共生という価値観に基づく新しい都市空間づくりの研究領域が創生される。神戸大学と国内外の2拠点を研究教育拠点として、博士課程学生および博士学位を取得した若手研究者に高度な研究と現場での実践の経験を積ませることが可能となり、学際性、国際性、実践性を兼ね備えた若手研究者を養成するための教育体制が確立される。</p>
<p>&lt;本拠点における学術的・社会的意義等&gt; 情報科学分野の最新の成果や、都市社会学分野で蓄積された思想と理念を、建築学、土木工学における理論と技術に反映させ、「安全と共生」を柱とする「都市空間のデザイン戦略」として新たな展開を図ることは学術的にきわめて価値が高い。さまざまな個人と組織からなる地域社会との連携や国際社会との協調の中で、都市・地域の戦略的ランドデザインを描く際の新しい視点を提供できることが期待され、その社会的波及効果も大きい。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>
<p>(コメント) 若手研究者を含めて研究活動は活発であり、個々の研究課題に関して成果を上げつつある。大学の支援により、COEとしての研究・教育の環境整備に十分な努力が払われている。また、KFS(神戸フィールドスタジオ)の設置は若手研究者に、研究と社会の関わり、研究成果の実務への反映の必要性を認識させる上で大きな効果があると評価される。しかしながら、「安全と共生の関係」および「共生の具体的内容」に関し若手研究者を含めたCOE全体での共通認識は未だ不十分であり、研究グループ内でさらなる討議により明確な共通認識を形成する必要があると考えられる。共通認識の形成により、やや個別化している研究課題の位置づけが明確になり、研究成果が統合化されて、本COEが目標としている「都市空間学の構築」につながるものと期待される。</p>